

海外で注目された気鋭の映画監督たちの作品と、幻の横浜映画を堪能する一週間！

## 横浜 黄金町映画祭 2008

～再上陸～海外が注目する日本の才能～

シネマ・ジャック&ベティにて、7月26日(土)～8月1日(金)開催

かつて、数多くの映画館が存在し、名画の舞台にもなった横浜・黄金町。横浜の映画文化の一時代を築いたこの街で、映画と、映画を通して横浜の魅力に触れることを目的とした映画祭を、この街に唯一残った名画座シネマ・ジャック&ベティで開催することとなりました。

記念すべき第一回目のテーマは、「再上陸～海外が注目する日本の才能」。

近年、日本映画が活況を呈する中、優れた内容を持ちながらも、劇場で公開される機会に恵まれなかった作品もまだ数多く存在しています。今回は、そんな作品群の中から、海外の映画祭に出品され、高い評価を得た作品、注目を浴びた作品を集めたメインプログラムと、横浜を舞台にした作品を特集上映することで、幅広い方々に「日本映画のもうひとつの魅力」に触れていただければと願っております。

### < 開催概要 >

\* 期間: 7月26日(土)～8月1日(金)

\* 会場: シネマ・ジャック&ベティ 横浜市中区若葉町 3-51

(京急黄金町駅より徒歩5分/横浜市営地下鉄阪東橋駅より徒歩7分/JR 関内駅より徒歩18分)

\* メインプログラム「世界が注目する日本の才能」/学生映画特集

横浜名画/黄金町映画/計4プログラム 全43本

\* 料金: 一般:前売り券1,000円/当日券1,200円(学生・シニア各200円引)

5回券4,500円/パスポート8,000円(学生・シニア同額)

小学生・中学生 当日1回500円

チケット販売: 劇場窓口、チケットぴあ、有隣堂本店(イセザキモール)

伊勢佐木書林(イセザキモール)、高橋書店(元町)

ヨコハマ・アートナビ(横浜市芸術文化振興財団 HP <http://www.yaf.or.jp>)

\* 主催: 横浜 黄金町映画祭実行委員会

\* 後援: 横浜市開港150周年・創造都市事業本部

\* 協力: 財団法人横浜市芸術文化振興財団、シネマ・ジャック&ベティ、東京藝術大学、日本映画学校、松竹(株)、東映(株)、日活(株)

国立近代美術館フィルムセンター、(株)フォーライフ・ミュージックエンタテイメント、映像探偵社(株)、ぴあ(株)、NHKエンタープライズ

\* 横浜市映画祭開催支援認定事業



映画祭ロゴマーク

また、期間中は、参加作品の監督、映画関係者を招いてのシンポジウムなどのほか、地元横浜映画を語るトークショー、東京藝術大学大学院映像研究科及び、日本映画学校の学生が制作した作品の上映、学校関係者らによる講演など、映画の世界を志す方々はもちろん、一般の方にも幅広くお楽しみいただけるイベントを多数予定しています。

そこで本映画祭を貴媒体・番組にてご紹介いただきますようお願い申し上げます。

取材も歓迎しておりますので下記へご連絡ください！

また、読者向け鑑賞券プレゼントの対応もいたしますので、どうぞご相談ください。

### < 本件に関する問い合わせ先 >

横浜 黄金町映画祭実行委員会 広報室(シネマ・ジャック&ベティ内)

TEL :090-6545-0252/渡辺 FAX :045-252-0827 E-MAIL: [festa@koganecho.com](mailto:festa@koganecho.com)

一般の方向けのお問い合わせ先:045-243-9800

映画祭ホームページ: <http://www.koganecho.com/>

## □ ■ プ ロ グ ラ ム 概 要 ■ □

### プログラム A: メインプログラム【海外が注目する日本の才能】

2007年、『殞の森』で、カンヌ映画祭で審査員特別賞を獲得した河瀬直美監督の、2006年のロカルノ映画祭で審査員特別賞を受賞した『垂乳女～TARACHIME～』をはじめ、同映画祭で2007年、『愛の予感』が日本人としては37年ぶりとなる金豹賞を含む4冠を獲得した小林政広監督の『女理髪師の恋』、2005年トリノ国際映画祭で長篇部門グランプリと観客賞をダブル受賞した、坪川拓史監督の『美式天然』など国際的に活躍中の監督の作品や、2007年香港アジア国際映画祭コンペティション部門でグランプリを獲得した新鋭の市井昌秀監督の『隼』、そして2007年上海国際映画祭の新人部門にノミネートされ、異例の売り切れを出した片岡秀明監督の『クロスワード・モノローグ』など、海外で堂々たる存在感をアピールした気鋭の監督たちの作品を一挙上映。本国日本よりも、一足早く海外の映画ファンに受け入れられた彼らの才能を一望できる機会です。

実写映画ばかりでなく、アニメーション作品やアートとしての映像も含め幅広い内容でお届けします。

関連イベントとして、「海外における日本映画」をテーマにシンポジウムを開催。→7/26(土)16:30～

同プログラム出品監督と、海外へ日本映画を紹介するプロデューサーらが一堂に集い、作品の製作過程から海外の映画祭へ出品までの道のり、そして今後の日本映画について深く議論していただきます。

また、7/30(水)18:30～の「アートフィルム特集上映後」には、出品監督らによるトークショーを開催します。

### プログラム B【学生映画特集】

2007年に馬車道に新設された東京藝術大学大学院映像研究学科、多数の映画人を輩出している日本映画学校という、未来の映画人を育成する2つの学校から、学生たちの優れた作品を上映。みずみずしい感性に溢れた完成度の高い作品をお楽しみいただく内容です。

関連イベントとして、映画評論家であり、日本映画学校校長を務める佐藤忠男氏による記念講演

「撮影所システム崩壊後の、映画製作を教える場としての学校の試行」を開催します。→7/26(土)20:30～

### プログラム C【横浜名画】

「港町」を背景に多彩な映画を生み出してきた横浜。その横浜を舞台に製作された多数の作品の中から、幻と言われる作品を厳選し、特集上映します。

時代劇のヒーロー「鞍馬天狗」をはじめ、数々の人気小説を世に送り出した横浜にゆかりの深い作家・大佛次郎が、文明開化後の横浜をエキゾチックに描いた『霧笛』(1934年)、戦前のモダンな横浜を舞台に2人の娘の恋の顛末が描かれた『港の日本娘』(1933年)を上映。期間中2回**活弁付き上映**を実施。→7/27(日)12:30、8/1(金)14:30の回

そのほか、昭和の痛快アクション作品、宍戸錠主演の『拳銃(コルト)は俺のパスポート』(1967年)、菅原文太主演の『横浜暗黒街 マシンガンの竜』(1976年)、そして、前田陽一監督による、地元の中村川を舞台に繰り広げる『喜劇・家族同盟』(1983年)、天地真理主演の『虹をわたって』(1972年)を上映。

関連イベントとして、横浜開港資料館研究員の平野正裕氏、映画史研究家であり、活弁を担当していただく丸岡澄夫氏が、横浜の街の変遷と映画を語る「横浜映画トークショー」を開催します。→7/27(日)14:30～

### プログラム D【黄金町映画】

あのマイクが黄金町に帰ってくる！永瀬正敏主演、林海象監督で大ヒットした「私立探偵濱マイクシリーズ」の第一弾、『我が人生最悪の時』、そして、ひとりの娼婦の姿を通して、時代とともに変わりゆく横浜の姿を描いた、中村高寛監督の名ドキュメンタリー『ヨコハマメリー』を上映！

上映にあわせ、林・中村両監督による「黄金町映画トークショー」を開催！→7/27(日)20:30～

また、最終の『ヨコハマメリー』上映にあわせ、中村高寛監督と本作の製作にも関わった写真家の森日出夫氏、作家の山崎洋子氏による「クロージングトークショー」を開催します！→8/1(金)20:30～

※各イベントは、前後のどちらかの上映作品の入場券でご参加いただけます。